

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集：FXニュースレター

執筆担当：斎藤登美夫

◆◆◆ No.0864 ◆◆◆

25/10/29

【ドル高基調は継続だが、終盤を迎えつつある可能性】

「ドルの短期サイクル」については、当レターでたびたび取り上げている。前回は 8 月 13 日付で取り上げており、詳細はバックナンバーを参考にさせていただきたいのだが、要旨だけをかいつまんで説明すると「4 月 22 日につけた安値 139.89 円をサイクルボトムにドル高基調に入っている」ーとの説明だった。その基本的な考えそのものは、いま現在も変化がないものの、肝心の「ドルの短期サイクル」におけるドル高基調もジワリと終盤に入りつつある気もし始めている。少しずつ、ドル安方向へのリスクについても頭に入れておきたいところだろう。

◎次のドルのサイクルボトムは「来春」有力、ただ「前倒し」も!?

テクニカル分析のひとつ、「価格」ではなく「時間」的な側面から相場の先行きを考える方法に「サイクル」がある。通貨ペアごとに、様々なサイクルがあるのだが、当レターで何度も取り上げているように、筆者がもっとも信頼を置いているものが「ドル/円の短期波動」。具体的に言えば、「10-15 ヶ月ごとにドルはボトムを付ける」ーという内容だ。

実例として、過去 10 年近くデータは右下表をご覧になっていただきたいが、いずれにしても、それによると先でも指摘したように足もとのドル/円は「4 月 22 日につけた安値 139.89 円をサイクルボトムにドル高基調に入っている」ーことが見込まれるわけだ。

ただし、ひとつ注意しておく、これも前段で少し指摘したが、「サイクル」とは基本的に時間軸で相場の先行きを考える方法であり、「価格」に触れることはない。したがって、現在のドル高基調が「どのレベル」にまで達するのかは正直わからない。すでに今回のドル高サイクル・トップを付けているのかも知れないし、160 円あるいは 200 円などといったレベルまでドル高が進行する可能性もゼロではないだろう。実際、今年のドル/円相場の年初来高値である 158.88 円を起点としたフィボナッチ・リトレースメントで考えると、同安値 139.89 円まで下げたことに対する 61.8%戻しはすでに超えており、残るは 76.4%戻し(154.40 円レベル)のみ。超えていくようだと、ターゲットは 100%戻しにあたる 158.88 円となり、若干のオーバーシュートを加味すれば 200 円はともかく、160 円は決して不可能だと言えそうにない。

そうしたなか、今回の「短期サイクル」がやや気になる様相を呈し始めてきた。それは 1 サイクルが「10-15 ヶ月周期」で、今回の起点が 4 月 22 日とされるなか、早くも 6 ヶ月という時間が経過したことによる。もちろん、基本的なサイクルからすれば最短でもあと 4 ヶ月程度、長ければ実に 9 ヶ月近くも「ドル高・円安」傾向が続いても不思議はない。実際、筆者もドルの次のボトムは「来春」が最有力候補だと考えている。

とは言え、右表をみてもらえばわかるように、ここ 2 回ほどはサイクルが短縮される傾向にあり、とくに前はわずか 7 ヶ月で終わってしまった。「二度あることは三度ある」ーではないけれど、ヒョッとすると今回のサイクルも、本来であれば最短の「10 ヶ月」よりさらに短くなる可能性も否定できないだろう。仮に足もとのサイクルが 8-9 ヶ月となれば、次のドルボトムは「来春」を待たずに訪れることになるわけだ。

飽くまでも、現段階では「メインシナリオ」ではなく、「サブシナリオ」のひとつに過ぎない。

しかし、ポジション的にドルロングが蓄積されているうえ、日本の当局がかつて「ドル高シーリング」として懸念していた 1 ドル=150 円を超えて推移していることと考え合わせると、少し長い目で考えた際には「ドル高」よりも「ドル安」方向へのリスクを意識する時間帯入りということを、頭に入れておいて決して損はない気がしている。(了)

短期波動(10-15 ヶ月)		
160624	98.65	10 ヶ月
↓	↓	↓
170908	107.30	15 ヶ月
↓	↓	↓
180326	104.57	7 ヶ月
↓	↓	↓
190103	104.10	9 ヶ月
↓	↓	↓
200309	101.19	14 ヶ月
↓	↓	↓
210106	102.60	10 ヶ月
↓	↓	↓
210804	108.72	7 ヶ月
↓	↓	↓
230116	127.22	17 ヶ月
↓	↓	↓
231228	140.26	12 ヶ月
↓	↓	↓
240916	139.58	9 ヶ月
↓	↓	↓
250422	139.89	7 ヶ月
*注：赤字は暫定値		

当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。



Copyright (C) fx-newsletter limited company All Rights Reserved



FX-newsletter